

令和 7 年度 富良野市廃棄物減量等推進審議会 議事録

日 時 令和 7 年 9 月 26 日（金）午前 1 0 時 0 0 分～ 1 1 時 3 0 分

場 所 富良野市複合庁舎 会議室 B

出席者 〈委員〉

佐藤健治、高橋穰二、鎌田勲、井出紳也、関野孝子、小野裕史（6 名）

〈欠席委員〉

寺島聡、渡辺寛子、狩野洋子（3 名）

〈事務局〉市民生活部長 北川善人、環境課長 高橋秀文、
環境係長 山岡鶴生

1.開会（進行：高橋課長）

2.委員長挨拶

お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。去年の 7 月以来の会議となる。昨年は廃棄物の処理及びリサイクル概要の協議の後、紙おむつの処理の工場を見学に行った記憶がある。今年は会議だけとなるが現審議委員の任期も今年度までとなるため、令和 7 年度の廃棄物の処理及びリサイクル概要について、限られた時間ではあるが、協議していただき来年に繋げていただければと思います。

3.副市長挨拶

本市におきましては、廃棄物処理法に基づく新たな「一般廃棄物処理計画」を令和 5 年 3 月に策定し、令和 5 年度から 14 年度までの 10 年計画としてスタートし、本年度が 3 年目となる。昨年度の収集量は、全体で約 6,445 t であり、前年度と比べると僅かながら（約 1 %）下がっている。全体の収集量は、ここ 10 年下がり傾向であり、人口減少が主な要因と認識している。

また、今年の 9 月から粗大ごみ・電気製品の LINE による申し込みを導入するなど、市民の皆さんのご理解も得ながら、できるだけ効果的・効率的な収集・廃棄物処理に努めてきたところです。

しかしながら、本市の廃棄物処理は、沿線自治体と協力しながら分担処理をしているところですが、本市をはじめ沿線の処理施設も経年による劣化が見えてきており、そのことと合わせて、処理経費も嵩んできているなど廃棄物処理に対する多くの課題が出てきております。

委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます、開催にあたってのごあいさつといたします。

以降、佐藤委員長が進行

4.議事 廃棄物の処理及びリサイクル事業概要について

事務局より説明

(委員)

小学校社会科副読本による環境学習について4年生で行っていると思うが、審議委員のみなさんは見にすることがないかもしれない、次回、資料としてつけてもらえると分かりやすいと思う。

人口の減少に伴いごみの排出量が減少傾向になっていると共に施設の老朽化とのことだが、なにか計画的な事があるのか伺いたい。

(事務局)

沿線の施設も含めて稼働を始めて25年前後になる。沿線を含めた中で課題と捉えているのが、上富良野町にある焼却施設と考えている。沿線自治体と協議している段階で具体的な事は決まっていない。今後5年位の間で整理していく。

(事務局) 別紙資料で説明

人口減少率は平成27年度から令和6年度比で14.9%減少している。

人口の減少率14.9%に対し生ごみは24.7%、固形燃料8.3%削減している。生ごみは、食品ロスの取組もあり、市民のみなさんの意識で生ごみは減少していると考えられるが、固形燃料ごみは人口減少率から比べても大きくは減少していない。逆に増えているごみとしてプラスチックごみは89.3%となっている。また、衛生用品ごみについては、8.3%増加している。一概にはいえないが高齢化率も8.7%増加している。

観光客の動向でみると平成27年度と令和6年度と比較してみても廃棄物の増減等についての因果関係は見えてこないが、未分別ごみに貼っている警告シールは令和5年度2,606枚に対して令和6年度は3,659枚と増加している。ホテルでの宿泊や民泊施設がある地域からなのか、転入者や外国人の居住が増えたという事なのかは分析を行っていく。

(委員)

うちの地域も警告シールが貼られる率が多くなってきた。富良野市はごみカレンダーやごみ分別の概要版は多言語であり、外国人転入者に説明しているようだが。

(事務局)

転入者にはごみ分別の説明を行っているが、中には単身で住所を移さずに富良野に引っ越してくる人もいる。民泊施設については道から情報を得て定期的に指導文を通知している。民泊施設でなく友達の家といって一戸建てに短期で住んでいる外国人とのトラブルもある。

(委員)

短期滞在用に全種類が少量入ったごみ袋があれば利用するのでは。

(事務局)

いいアイデアだと思います。検討してみたいと思います。

(委員)

固形燃料の生産量と出荷量に差があるが。

(事務局)

生産量は固形燃料が出来たすぐの量を計っているが、出荷までに1年ぐらいかかる場合もあり固形燃料の水分量等が影響していると考えられる。

(事務局)

空きびんのびんポスト収集について、空きびんの割れ率が多くリサイクルに回らない物が多くなっている。びん製品も少なくなっているため、将来的に収集形態の変更も考えていかなければならない。

(委員)

冬場は雪が積もり入れづらい。近隣町村では袋に入れて出している。

(事務局)

空きびんは、中富良野町の間処理場に入れているが、富良野市の空きびんの割れ率は他の町村に比べるとかなり量が多い。

(委員)

埋立処分場について満量になるのが近い将来だと言っていたが。

(事務局)

昨年、埋立物の測量を行ったところ10年から15年の残余量がある。定期的に測量を行っていく。

5.その他 電力リバーサオークションによりリサイクルセンターの再生可能エネルギー調達による Re 電力について

リサイクルセンターの電力を 100%再生可能エネルギーで4月から稼働しており、8月末までの状況では、使用電力は大きく変わらないが、金額で90万円ほど削減出来ている。再生可能エネルギーを導入することでCO₂の削減効果があり、ほくでんの排出係数で計算すると71tのCO₂の削減を見込んでいる。学校などにある25mプール1個でCO₂が1tと言われているので、プール71個分のCO₂が削減出来ている結果となっている。金額自体も2割くらいの削減になっているので次年度以降についての導入可能な施設を検討していきたい。

その他2 粗大ごみの市公式LINEから申込み開始

今まで、環境課窓口で行っていた紙伝票による受付をやめ、書かない窓口として受付を9月1日から始めている。今までどおり窓口や電話での受付も行う。ごみ処理券や小型電気製品袋は市内のローソン、山部のセブンイレブンで販売している。

事務連絡

11月18日(土)人材開発センターで、ふらの環境展2025を開催する。今年度は青年会議所の70周年という事でタイアップしての開催になる。